

# 視察報告書

報告者氏名：池田 徳重

委員会名：都市整備常任委員会

期間：令和6年 10月21日（月） ～ 10月23日（水）

## 視察都市等及び視察項目

福岡市 「インクルーシブな子ども広場」

北九州市 「衛星画像と AI を活用した漏水調査」

大阪港湾局 「港湾の多機能化（堺泉北港）」

## 各項目視察内容及び所感等

### 1 インクルーシブな子ども広場

福岡市は、「みんなが優しい、みんなに優しいユニバーサル都市」プロジェクトの一環でインクルーシブな子ども整備指針を策定し、令和5年から7年度までの3か年で7か所のインクルーシブな公園を整備中である。その中で令和6年6月に供用開始した公園についての説明を受け、この種公園のあるべき姿、またこれが横須賀市に適用できるか否かについて探った。

#### (1) 判明事項、聞き取り事項抜粋

##### ア 公園整備のコンセプト

- ①保護者と子供が一緒に遊べる。
- ②自然と人工物の調和がとれている。
- ③一人遊びとみんなでの遊びを選択できる。
- ④特に配慮すべき利用者が気兼ねなく利用できる。

##### イ アクセス、トイレにはバリアフリーの配慮

ウ 公園の整備指針策定にあたっては、特別学級に聞いたり、障害者（視覚障害者は適当な方が見つからず）も参加してもらったり、地域住民の意見聴取をしたりして検討した。

エ 現在供用開始した公園は、既存の遊具が老朽化してことからその代替としてインクルーシブな遊具を採用している。その他の部分は大きな変更はない。

オ 不活発な子たちが遊べる遊具を入れたが、これで健常児を追い出したとは思ってはいない。その子達は公園部分で遊んでいる。ただし、供用開始してから間もないことから調査分析はできていない。

カ 不活発な子達の遊具は一般に流通している物を使っている。それぞれの価格が高いので利用者が増えれば価格は下がってくるのではないか。

## (2) 成果及び所見

ア 供用開始間もないことから福岡市はこの公園による効果等を調査分析できていない。したがって、この研修は実施時期がやや早すぎた感が否めない。

イ 福岡市でインクルーシブを目指して整備した（計画中を含む）は全て大きな公園であり、インクルーシブな遊具で遊ぶのとは別に、健常児も含め芝地等、遊具以外で誰もが遊べるスペースがある。したがって敷地が比較的狭い横須賀市の公園では、インクルーシブの遊具を整備しつつ、その他の健常児が遊べる広場を確保するのは極めて厳しいと感じた。

ウ 横須賀市で実施するのであれば、バリアフリーな環境を整備し、古くなった遊具の更新時期に少なくとも1つの遊具をインクルーシブな用途で使えるものとする程度から始めるのが適当であろうと考える。

## 2 衛星画像と AI を活用した漏水調査

北九州市は、全国自治体の中でもまだ珍しい衛星画像と AI を活用した漏水調査を実施している。その効果等について聞き取りし、これを横須賀市で導入することができるか、導入する場合の留意事項等について確認した。

### (1) 判明事項、聞き取り事項抜粋

ア 横須賀市と比較し、水道管の距離は3倍、給水人口も3倍である。有収率は横須賀市が91.4%であるのに対し、同市は90.1%である。

イ 漏水率（R6）：6.3%

ウ 令和4年度実施した衛星漏水調査

（ア）イスラエルのベンチャー企業「アステラ」の技術使用

（イ）Lバンドを使用し、反射した電磁波の被誘導率で判定

（ウ）漏水可能区域を直径200mの円で表示

（エ）本試験の結果は発見率42.4%

(オ) 効果は、

- ・漏水一か所あたりの調査面積：0.26km<sup>2</sup>の削減
- ・給水区域全域の調査期間：半分に短縮

エ 令和5年度実施した漏水リスク評価

(ア) JAXA認定のベンチャー「株新天人」の技術使用

(イ) 漏水リスクを機会学習による劣化予測によって解析

(ウ) 評価に活用するデータ

- ・水道管路情報
- ・負荷要因（地表温度、降水量、人口密度、世帯数、漏水履歴等）

(エ) リスク評価を5段階で実施

(オ) 調査結果と水道管事故履歴との関係

リスクが最も高いと判定された個所で4%弱、その他1%弱

オ 今後の展開

両企業の技術の向上、国の施策、他都市の状況等も収集しながら有収率の向上に取り組んでいく。

(2) 成果及び所見

ア 精度的にはまだまだ不十分で、現状で当市が採用するのは時期尚早であると考え。ただし、他都市のデータ等の蓄積が進み、精度が上がれば採用する価値は十分にあると考え。

イ 北九州市が実施した衛星漏水調査では漏水の現状がわかり、漏水リスク調査では漏水する可能性といった予想を立てることができることから、将来的に導入するのであれば、まずは衛星漏水調査を、財政的に可能ならば両方の導入が適当であると考え。

### 3 港湾の多機能化（堺泉北港）

横須賀港で開発計画が進んでいる第2埠頭建設の資とするために、多機能に活用されている助松埠頭の状況と現在建設が進んでいる汐見埠頭の完成後の用途について学び、以下の質疑をおこなった。

- ・ 泉北埠頭では、すでに運用されている助松埠頭を高い位置から見ながらの活用状況の説明を受け、質疑応答を行った。

- ・ この埠頭を使用している阪九フェリーから利用状況等の説明受け、質疑応答を行った。
- ・ 汐見埠頭の建設現場が見える所からこの埠頭の概要と今後の活用予定等の説明受け、質疑応答を行った。

#### (1) 判明事項、聞き取り事項抜粋

ア 助松埠頭が多機能な用途と主要航路について確認した。港の需要拡大のため海外へのポートセールスに努めている現状を確認した。

イ 阪九フェリーの乗車率の推移（コロナ禍以前に戻りつつある。平日はほぼ満員）、各航路の紹介、乗組員の勤務態様等（5航海乗って2航海分休む、乗組員は日本人ばかり、女性の運航関係者は会社全体で航海士が1名いるのみ）、今後の航路増設の可能性（需要は見込めるが、乗組員不足で実現は厳しい）、速力30Kt越えで運行していて採算が取れるか（燃料代を考慮し、料金を高めに設定）等について質問し、確認した。

ウ 汐見埠頭の建設状況と特性（ゴミを埋め立てた場所で高い建物を建てられない）ことから、輸出用中古車の仮置き場や緑地、あるいは太陽光発電機のパネル設置場所として活用されていることを把握した。

#### (2) 成果及び所見

ア 大阪府が所掌している埠頭は広大であり、機能ごとに違う埠頭が使われていたことから、今回の視察の主目的であった横須賀の第2埠頭建設計画の資となるような小さな埠頭で多機能な運用を可能にするための工夫等について学ぶことができなかった。この目的であれば同規模の埠頭を研修すべきであったと考える。

イ 大阪府は港の利用率向上のために海外にまでポートセールスを広げていたのに対し、久里浜港の利用率が低迷している横須賀市が実施しているポートセールスはやや低調である。セールスに赴く地域の拡大も含め、横須賀市にはさらに積極的なポートセールスを期待したい。